

校内研 令和6年度の研究主題について

4月11日(木) 校内研担当 田中

I これまでの研究主題および成果と課題

(1) R4年度

主体的・協働的に学ぶ子どもの育成を目指して
～深い学びの姿を求めて～

(2) R5年度

主体的・協働的に学ぶ子どもの育成を目指して
～深い学びの姿を求めて～

主題に迫るため 仮説にもとづき、以下の視点で研究を深めてきた。

- 視点① 「めあて」の設定と、「自らの学びを振り返る」主体的な学びにつながる授業の工夫（振り返りの工夫）
- 視点② 協働的な学びのための、「対話の質」を重視した「つながり」のある授業の工夫（ICTの活用）
- 視点③ 「深い学びの姿」の実現を意識した授業づくりの工夫（具体的な児童の姿のイメージ・一人一人の児童の実態把握と評価の工夫）

(3) 昨年度の研究のまとめから

本研究の一番の目標は、「主体的で協働的に学び合う子どもの育成」である。とても大きなテーマではあるが、昨年度もその目標を実現するために、チーム別に課題を考え、そして自分の授業実践にその課題を意識して取り組んできた。その結果、まずは一人一人が自分の授業を見つめ、考え、実践しようという意識ができた。3つの視点を大切にすることで、主体的に学び合うために必要な、「意欲を引き出すめあての設定」「めあてと振り返りの連動」「学び合いの姿」「ICTの活用」といった面においては、成果が見られた。また、児童自らが学びを深めていくとはどういうことかを実感できる授業の積み重ねになってきたのではないだろうか。「深い学びの姿」を意識することで、昨年度も教師自身の授業改善につながった。また何より一人一人がまずは自分の授業を見つめる機会ができた。

そこで学校評価アンケートや学力検査から見えてきたものも書いてみたい。

○学力検査結果からの取り組みについて*参照

○「先生方はわかる授業、楽しい授業づくりに努めていますか。」という項目に対して、教職員は、「思う」「そう思う」としているが、児童、保護者の割合は9割であり、児童の中には「そう思わない」「思わない」という割合も出てきた。全体的には日頃の授業実践がつながっていると思われるが、児童の結果のみ「思わない」という小数部分が本年度も見逃せない。また学力検査の結果分析をし、学力層別分布という方法を利用すると、個別指導が必要な児童が洗い出される。このようなことから、さらなる課題として、一人一人の児童の力をどう伸ばすのかここが見逃せない。

そこに向かうためのさらなる研究課題としては、次の点ではなかろうか。

一人一人の児童の力をどう伸ばすのか

1、一人一人の児童の実態の把握

より効果的な ICT 活用、個別指導の工夫

2、3 観点の評価について

目指す姿の具体化、示し方（児童と共に共通理解を図る）

3、対話やつながりにおける話し合いの高まり（質）学級集団としての学び合い

話し合いの姿の提示（型でなく内容）

教師自身のスキルを磨くとともに、「児童一人一人の力を伸ばす」という部分を大切にしながら、よりよい教育活動を推進していきたい。

2 本年度の研究テーマの提案

○昨年度末の意見

- ・本年度同様で研究し、より深めていきたい。
- ・授業の進め方の核になる部分なので、このテーマを追求していくことが良い。
- ・本年度できなかったことやもっと高められることをさらに積み重ねていきたい。

○本年度研究テーマ（提案）

主体的・協働的に学ぶ子どもの育成を目指して
～ 深い学びの姿を求めて ～

※主体的に学ぶとは

- ・身の回りのことや社会に関心を持ち、意欲的に活動すること。
- ・自ら課題を持ち、筋道を立てて考え、課題解決に臨むこと。
- ・学んだことや身に付けたことを自分の生活に生かすこと。

※協働的に学ぶとは

- ・児童同士がかかわり合う中で、互いのよさに気付いたり自分の考えを深めたりすること。
- ・子ども同士がつながりを持つことで、互いの考えを深め、思考力を高めること。

※深い学びの姿とは

- ・各教科それぞれの「見方・考え方」を働かせるすがた。
- ・その単元や授業における「深い学びの姿」を具体的にイメージする。
- ・昨年度までの「つながり」を意識した学びもこの中に含む。

3 研究の流れ

○目指す子ども像を明確にし、研究主題に沿った仮説を立てる。

○研究の仮説にもとづいた研究の視点を設定する。

- 研究主題に沿った日常の取り組み、および授業改善を通して、児童の変容を見る。
- 取り組みの成果と課題を発表しあい、次年度以降につなげていく。

4 児童の実態

本校の児童は、素直で明るく、全体的に真面目に学習に取り組む傾向にある。学力検査の結果では、学力の平均は熊本市の平均を上回っており、学力が安定している児童が多い。しかし、学級の中で、高い学力を示す児童の割合が高い一方、理解に時間を要する児童も少なくなく、学力の個人差が大きいことは課題である。また限られた児童が発言し、学級全体で児童同士が活発に学び合う姿があまり見られないことが課題であった。これまでの研究の成果として、学び合いや振り返りの機会を設定し取り組むことで、少しずつ学び合いの意識の高まりが見られ、自らの学習を振り返るようになってきた。また振り返りの視点を明確にすることで、1年生から自分の学びを見つめるようになってきた。

さらに児童一人一人の実態を把握し、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で教師一人一人が授業改善に努めなければならない。

5 学校教育目標（令和6年度）

「夢と笑顔があふれる学校を目指して」

目指す子ども像

～自分で決める子ども～

6 研究の仮説と研究の視点（提案）

（1）研究の仮説

仮説1 「学びたい」という意欲を引き出す「めあて」と連動した「振り返り」を設定し、その「めあて」に迫る授業展開の工夫を行えば、主体的に自らの学びを豊かにする子どもが育つであろう。

仮説2 子どもたちの意欲を高め、「対話の質」を重視した他者との「つながり」のある授業を展開すれば、協働的に学ぶ子どもが育つであろう。

仮説3 学習指導要領のねらいや各教科の見方・考え方を把握し、授業や単元における「深い学びの姿」を意識した授業づくりを行えば、児童の「深い学び」の実現につながるであろう。

(2) 研究の視点

視点① 「めあて」の設定と、「自らの学びを振り返る」主体的な学びにつながる授業の工夫

(振り返りの工夫)

視点② 協働的な学びのための、「対話の質」を重視した「つながり」のある授業の工夫

(ICTの活用)

視点③ 「深い学びの姿」の実現を意識した授業づくりの工夫

(具体的な児童の姿のイメージ・一人一人の児童の実態把握と評価の工夫)

前田先生の進め方)、一人一人が自分の授業の問題点を探り、改善策を取り組みとして1年間授業改善に取り組んでいく。

夏休みの研修で決定。1月のまとめで発表。(4, 5分程度)

7 研究授業について (提案)

初任校研修、2年目、3年目研修における授業を研究授業として取り扱う。

(研究授業の内容)

○ 教科をしぼらない。

研究テーマ (特に今年の自分の授業の視点を意識する。)

研究会では授業者の先生からの学びを自分にどう生かすかを考え発表していただく研究会とする。

先生方には、山形先生の参観授業を公開にさせていただく。(指導案はなし)

教頭先生には国語の授業を見せていただく。

8 その他

- ・ 日常の取り組みの充実（話す、聞く）

（授業のパターン化、特別支援の視点、基礎基本の定着、）

- ・ ドリルパークの活用や家庭学習（自主学習について）
- ・ カリキュラムマネジメント
- ・ 先生同士のつながり、学び合いを生む校内研の推進

※今後の研修について

次回 4月26日教科等部会全体会 19日まで各学年から伝えておく

3回目 5月 日救命救急法

今後の予定でぜひ取り組んでもらいたいことを年間計画に入れる。